

# 2021 年および 2022 年秋の小型沖曳網によるヒウオ採捕結果

佐々木 賀治

## 1. 目的

12 月エリの漁況を予測するため、本試験場において同漁法の漁獲対象であるアユ稚魚（以下ヒウオ）を漁獲加入前に採捕する手法の開発が求められている。11 月中旬以降には小型沖曳網によりヒウオが採捕できるが、それらは 12 月にエリで漁獲されたものよりふ化日が遅い群であることが知られている（久米ほか、2021）。しかしより早い時期に同様の調査をすることで 12 月エリ漁獲アユと同質の群を得られる可能性があるため、11 月中旬以前より小型沖曳網調査を行い、ヒウオの採捕を試みた。

## 2. 方法

2021 年 11 月 5、16、17 日に彦根市松原沖または薩摩沖、2022 年 10 月 22 日、11 月 11 日、25 日に同松原沖で小型沖曳網調査を行った。2021 年の曳網水深は 3-10m、2022 年の曳網水深は 5-20m とした。採捕には袋網の網目が 2mm の沖曳網を用い、ロープ長は 90m とした。曳網は複数回行い、その速度は秒速約 0.4m

とした。

## 3. 結果

1 曳網あたりの平均採捕尾数を図に示す。2021 年 11 月 5 日、2022 年 10 月 22 日、11 月 11 日の採捕尾数は 0-7 尾とわずかであり、平均採捕尾数はそれぞれ 0.7 尾、0.3 尾、2.8 尾であった。一方で 2021 年 11 月 16、17 日、2022 年 11 月 25 日の採捕尾数は 0-556 尾と曳網間の変動は大きいものの大きく増加し、平均採捕尾数はそれぞれ 100 尾、30.5 尾、84.3 尾であった。

以上より、小型沖曳網では 11 月後半にはヒウオの十分な採捕が可能であるものの、それ以前の採捕は難しいと考えられた。久米ほか（2021）では漁業者を備船し大型の沖曳網を用いることで 11 月上旬のヒウオ採捕を行っていることから、今後同様の時期にヒウオの採捕を行う場合は沖曳網の大型化を行うか、新たな採捕手法の開発が必要であると思われる。

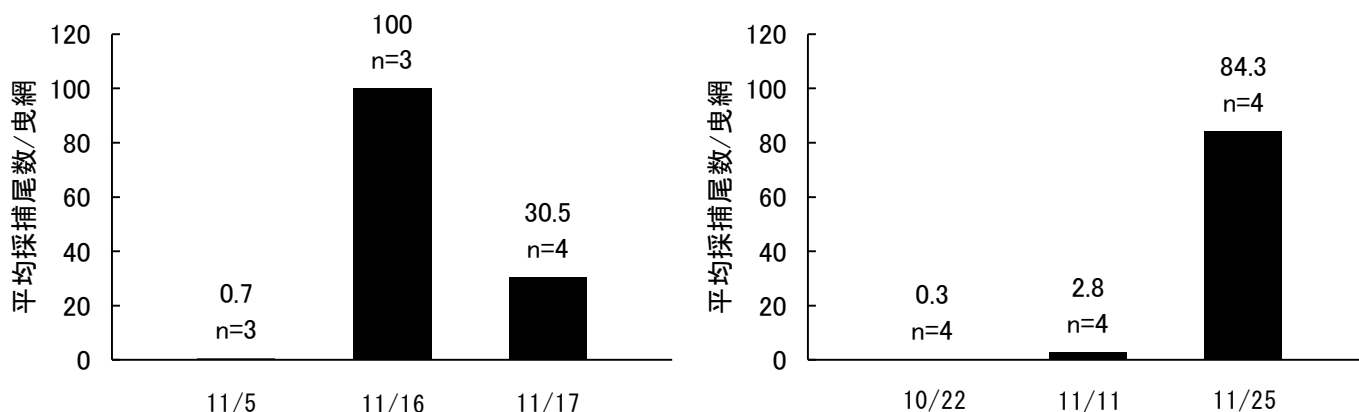


図 各調査日に採捕されたヒウオの 1 曳網当たりの平均採捕尾数  
(左：2021 年、右：2022 年、n は曳網数)

引用文献：久米弘人ほか（2021）. 秋に沖曳網で採捕された琵琶湖産アユ仔稚魚の体長とふ化日. 滋賀県水産試験場研究報告 57 号.